

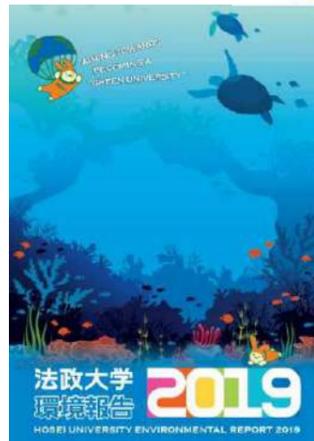
応募団体：法政大学環境センター
事例：「いま、大切な地球のために、えこぴよんと一緒にできること」

法政大学における環境の取組の歴史

高等教育機関においては、キャンパスにおける教育研究活動及び大学生活における一つの行動の積み重ねが地球環境問題に影響を与えている。

本学は、地球環境問題の解決に向けた決意表明・宣言として、1999年に「環境憲章」を制定し、市ヶ谷キャンパスの大学院棟において ISO14001を取得、後に市ヶ谷及び多摩キャンパス全体に登録範囲を拡大した。2017年度には、三キャンパスを対象範囲とした「法政大学EMS」を始動し、PDCA サイクルによる継続的改善のプロセスを経て、キャンパスにおけるあらゆる活動による環境負荷を低減することを目指しているが、EMSの効果的な運用と学生の主体的な参画が課題となっている。

2020年6月発行「法政大学環境報告2019」の表紙は、「えこぴよん」が大学から飛び出して海を旅している。母校愛が強く、自分の世界に未来がかかっていると思ひ込み、世界を舞台に活動する「えこぴよん」と一緒に、新型コロナウイルス感染症に負けずに身近な所から取り組むきっかけとなればと考えている。



学内の環境教育・研究、環境保全活動を紹介した「法政大学環境報告2019」



いま、大切な地球のために、えこぴよんと一緒にできることを一緒にできるべしと

法政大学環境センター

法政のエコは「えこぴよん」が支えています



「グリーン購入小委員会」は、2008年1月に発生した「古紙パルプ配合率偽装問題」の影響を受けて取組が停滞しないように、「環境改善活動推進キャラクター」を公募し、2008年度に人間環境学部の学生が考案した「えこぴよん」が誕生した。

「えこぴよん」は、スクールカラーの服を身にまとった母校愛が強く、自分の背中に地球の未来がかかっていると思ひ込み、地球環境問題の解決に向けて世界を舞台に活動をする兎である。当初から環境意識の啓発に活用されたため、環境センター職員から呼びかけた場合と比較して、環境保全活動に親近感をもたらし、学生・教職員と環境の取り組みを結びつける役割を果たしている。

法政大学EMS運用管理アンケートの概要

環境センターは、「法政大学EMS」を効果的に運用し、学生の参画の拡大を目指して、OECD が提唱する課題解決に向けた行動インサートの活用に向けた「BASIC」アプローチを活用して「EMS運用管理アンケート」の質問項目を大幅に改定した。

アンケート調査からは、「グリーン購入の推進」における「学内の事務用品の調達プロセス」における「行動バイアス」を発見した。学内においては、「グリーン購入ガイドブック」、環境省「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」を活用して事務用品を調達した割合は発注担当者の約57%に過ぎない。また、事務用品の調達プロセスにおいては、発注担当者は固定される傾向や「環境ラベル」を用いて「グリーン購入」を推進することが可能であり、物品調達の判断材料は「コスト」と「品質」となる。

また、「省エネルギー」の推進は、「学内におけるエレベーターの利用状況」は、「いつも使用している」、「だいたい使用している」を選択した割合は、三キャンパス併せて約87%に至っており、運用基準を順守しない理由として、「健康の問題（約36%）」、「時間的な問題（約33%）」が挙げられる。

アンケート調査結果からは、解決策を立案する鍵となる「行動バイアス」を踏まえて、環境マネジメントプログラムの「実施」のプロセスにおける情動的介入を目指した施策を企画立案・実施した。

法政大学グリーン購入宣言

大切な地球のために、えこぴよんと一緒にできること。

法政大学グリーン購入宣言

宣言するSDGs

品質も、価格も、地球も。

その1. 「グリーン購入」は、「環境負荷が低減できる限り小さい製品・サービスの調達」を意味します。

その2. 「グリーン購入」は、「環境負荷が低減できる限り小さい製品・サービスの調達」を意味します。

その3. 商品の選定時は、環境ラベル（グリーン購入法適合商品、エコマーク商品、エコ商品ラベル、PMアワード、PMアワード）等を活用します。

その4. 印刷物の発注時は、グリーン購入法に適合した用紙（再生紙）を使用します。

その5. 買物時に「マイバッグ」を持参してレジ袋を節約します。

その6. 購入した製品・サービスの輸送は、環境負荷が低減できる限り小さい手段を選択します。

法政大学は、「持続可能な社会の実現」を目指す上でのSDGs（持続可能な開発目標）を踏まえて、環境月間として取り組んでいます。

2020年6月 法政大学環境センター
TEL:03-3264-5681, E-MAIL:linkankyo@hosei.ac.jp

2020年6月、環境センターは、環境月間の特別企画として、上記の「行動バイアス」を踏まえて、本学における製品もしくはサービスを調達時に「品質」、「価格」と同時に、環境負荷ができるだけ小さい「製品・サービスの調達」を目指した「法政大学グリーン購入宣言 大切な地球のために、えこぴよんと一緒にできること」を企画した。

「法政大学グリーン購入宣言」は、「グリーン購入の定義」、「物品調達前に心掛ける3R」、「物品選定時の環境ラベルの活用」、「印刷物の発注時のグリーン購入法に適合した用紙の調達」、「買い物時のマイバッグ持参」、「購入した製品・サービスの輸送時の環境配慮」に関連した「環境配慮行動」を宣言している。また、同宣言においては、「グリーン購入法」に基づいた専門用語が多用されている「グリーン購入ガイドブック」と比較して、OECDの消費者政策を参考に、製品・サービスの調達に関する主な「行動指針」と選定にあたっての「判断基準」について「5分あれば読めるように」、わかりやすくA4一枚に集約した。

えこぴよんの豊かさとお海を守ろう in 2020



2020年6月、環境センターは、2019年5月に策定された「プラスチック資源循環戦略」を踏まえて、環境月間に「グリーン購入」、「省資源」、「廃棄物」の削減に向けた学生の積極的な参画の拡大を目指してキャンペーンを企画・実施した。キャンペーンは、普段の生活と一つの選択が相互に依存しているSDGsの重要課題との関連性を身近に考えることができるように、地球規模の海洋汚染をテーマにとりあげた。また、参加者が「海洋プラスチックごみ削減」に該当する取り組みを各自で宣言する。地球環境問題は一つの行動の積み重ねが地球のどこかで影響を与えている可能性があり、学生が主体的に「環境配慮行動」を実践することを目指して30名近い応募があった。

Take the Stairs Campaign at HOSEI 2020

2020年3月、環境センターは、持続可能な社会の実現に向けて「エネルギー使用量削減による地球温暖化の防止」と「健康増進」という親和性が高い社会的課題の解決を目指してキャンペーンを企画した。

また、環境保全活動の活性化を目指して、従来の環境マネジメントプログラムの「階段利用」の目安よりも難易度の高い目標を設定し、参加者が目標を宣言する行動経済学「ナッジ」の手法を活用した。

環境センターは、キャンペーンの参加を通して、エレベーター利用などの習慣化されている行動パターンから、持続可能な社会の実現に向けた行動の変容を呼びかけた。新型コロナウイルスの感染拡大を懸念してスポーツジムに通うことを控えている人も多いため、基礎代謝の昇及び脚力増強が見込まれる「階段利用」を通して健康増進も同時に目指した。



Take the Stairs Campaign at HOSEI 2020

【募集期間】2020年2月17日（月）～2月28日（金）16:00
募集期間を延長致しました。

【実施期間】2020年3月1日（日）～3月31日（火）

【対象】本学教職員

【主催】法政大学環境センター
【協賛】法政大学環境センター（linkankyo@hosei.ac.jp）に宣言して下さい。

目標は下記の3パターンより選択して下さい。

1) フットサルコート 上り1階、下り1階（10,000歩/日）

2) サッカーコート 上り1階、下り1階（10,000歩/日）

3) サッカーコート 上り2階、下り2階（12,000歩/日）

※宣言は日本における1人1階級（1フロア）を基準とします。

2019年度環境目標

市ヶ谷・多摩・小金井キャンパスの特定温室効果ガス排出量について基準排出量(20,660t-CO2)から17%削減する。

